仏語学仏文学専攻

1．専修科目，授業科目，単位数，担当者及び授業内容

※　担当者氏名前の○印は，令和７年度の学生募集担当者を表します。

専修科目	授業科目	単位数	担当者	授業内容
仏語学	仏語学特別研究Ⅰ	4又は12	教授 博士 （言語文化学） ○山本　大地	統語論，意味論，語用論，およびそれらの関係の解明を視野に入れた言語理論の応用研究。文献講読を通して理解を深め，書き言葉，話し言葉，また様々なジャンルのフランス語に観察される言語現象を統一的かつ整合的に記述することを目指す。
	仏語学特論Ⅰ	4		フランス語学における統語論，意味論，語用論の様々なアプローチ概観。具体的には Oswald Ducrot，Mary-Annick Morel，Claire Blanche-Benveniste，Jean-Claude Anscombre の論考を手掛かりにそれらの言語理論の理解を試みたうえで，実例の観察を行いながら批判的に検討する。
	仏語学特別研究Ⅱ	4又は12	教授 博士（言語学） ○川島浩一郎	現代フランス語を対象とする言語研究（とくに統辞論，形態論，意味論，音韻論）に関して，学術論文の執筆や口頭発表をふまえた，学位論文の作成を目標とする実践的な研究指導を行う。各自の研究テーマについて，具体的なデータの収集，記述，分析の方法を検討する。
	仏語学特論Ⅱ	4		音韻理論から表意単位へ。機能音韻論（A. Martinet），二項対立理論（R. Jakobson）などの音韻理論を表意単位に応用する試み（形態論，統辞論，意味論）を通して，この手法の可能性と限界を具体的に検証する。
仏文学	仏文学特論Ⅵ	4	准教授 博士（文学） 井関　麻帆	18世紀フランス文学，特に自伝的作品を中心に分析する。啓蒙思想家ルソーをはじめ，大衆作家レチフや無名の職人が残した記録などを通して「自己を語ること」について考察する。また，自伝の誕生と個人主義的・自由主義的な思想との関係について検討する。
	仏文学特論Ⅴ	4	教授 博士（文学） 鈴木　隆美	19世紀末から20世紀初頭にかけて，特にゴーチェ，マラメル，ヴァレリー，プルーストといった作家を中心に，舞踏の表象がいかに文学作品に取り入れられ，どのような機能を果たしていたのか研究する。その際，当時の哲学的な言説の影響を視野に入れて，テクストを読解，分析していく。

その他の科目（担当者未定科目）

授業科目	単位数	授業科目	単位数
仏文学特別研究Ⅰ	4又は12	仏文学特論Ⅰ	4
仏文学特別研究Ⅱ	4又は12	仏文学特論Ⅱ	4
仏文学特別研究Ⅲ	4又は12	仏文学特論Ⅲ	4
仏文学特別研究Ⅳ	4又は12	仏文学特論Ⅳ	4
仏文学特別研究Ⅴ	4又は12		
仏文学特別研究Ⅵ	4又は12		

2．履　修　方　法

① 学生の標準修業年限は3年とし，所定の研究指導科目について，合計12単位以上を修得しなければならない。ただし，優れた研究業績をあげた者については，1年以上在学すれば足りるものとする。

② 研究指導科目の中から一つの特別研究科目を選定し，これをその学生の専修科目とする。その専修科目を必修とし，12単位を修得しなければならない。

③ 特別研究科目は3年間12単位の履修を原則とするが，専修科目としない場合は，1年間4単位の履修も認めることがある。

④ 専修科目の研究指導（特別研究）担当者を当該学生の指導教員とし，学位論文の作成，その他研究一般について，その指導に従うものとする。

⑤ 博士の学位論文は，専修科目について提出するものとする。

※昼夜開講制について

仏語学仏文学専攻では，働きながら大学院で学ぶことを希望する社会人の学修を容易にするために，昼夜開講制を導入しています。本専攻を志願し，夜間の受講を希望される方は，出願の前に大学院事務課（人文科学研究科担当）へお問い合わせください。